

町立病院より



肝付町立病院 院長

菰方 輝夫

あけましておめでとうございませう。

令和6年、新年のあいさつを申し上げます。

令和5年1月から肝付町立病院院長を拝命しました。1年足らずですが、地域医療の何たるかを肌で感じ、町立病院の役割の広さ、深さを身に染みて痛感しております。

肝付町、特に内之浦地区は人口減、高齢化率の増加が一段と相まっておりますが、町立病院の役割は肝付町民への医療サービス提供の一択です。病院のインフラ整備と医療人的サービスが基盤であることは言うまでもなく、町立病院の発展の継続がその礎になると確信しています。外科1名、



内科2名の常勤医3名、循環器内科、整形外科、眼科、呼吸器外科各1名の非常勤医、元病院長の井畔先生のサポートも得ながら、職員一同、町民の皆様の安心・安全な医療提供に邁進します。地域医療への貢献が町立病院の目標であるならば、その手段は、内之浦

地区だけではなく高山地区の住民の方々の「かかりつけ医」となること、換言すれば、肝付町全体の住民の方々の医療インフラ基盤となることです。かかりつけ医となることで、高次医療機関への適時適所紹介、ドクターショッピングにまつわるポリファーマシーの回避、包括的アプローチによる患者さんの精神・身体的諸問題の理解と解決がブラッシュアップされます。

令和6年に向けて、肝付町役場、住民の方々と交流を一層広げていきます。交通の利便性を増やすために送迎車の運用を具現化していきます。

広報、学術にも汗をかき、地域連携として、大隅の主要な急性期病院との後方連携に努めます。

職員一同、町立病院の目標、それを実行するための手段を念頭に、町立病院の発展的継続を目指していきます。今年もよろしくお願いたします。

